

尺度使用マニュアル

<尺度名>

日本版 Brief Core Schema Scale (JBCSS)

<測定概念>

日本版 Brief Core Schema Scale (JBCSS) は、「私は良い人だ」、「私には価値がない」といった自己に対するポジティブ、ネガティブなスキーマと、「他の人々は信用できる」、「他の人々は厳しい」といった他者に対するポジティブ、ネガティブなスキーマを測定する。スキーマは幼少期の体験などによって形成される、個人の中で安定している信念や態度のことである。そして、このようなスキーマがネガティブで適応的でない場合、現実を否定的に歪めて解釈させ、結果として抑うつなどの精神症状を生じさせると仮定されている。

<適用範囲>

臨床群（主に精神病圏）を対象に作られた尺度であるが、非臨床群（大学生以上）にも実施されている。項目内容の表現から高校生にも適用が可能と考えられる。

<尺度構成手続き>

Fowler et al. (2006) の作成した Brief Core Schema Scale の 24 項目について原著者の許可を得て日本版 Brief Core Schema Scale (JBCSS) を作成した。翻訳に際してはバックトランスレーションを実施している。JBCSS を、大学生 266 名を対象に実施し、因子分析を行った結果、原版と同じ 4 因子（自己ポジティブ、自己ネガティブ、他者ポジティブ、他者ネガティブ）が得られている。項目の追加・削除は行っていない。

<信頼性>

因子分析で得られた 4 因子について、内的整合性の信頼性係数である、Cronbach の α 係数を算出したところ、自己ポジティブが.84、自己ネガティブが.79、他者ポジティブが.84、他者ネガティブが.85 という結果が得られた。

また、49 名の健常大学生を対象として、再テスト法を実施した結果、1 回目と 2 回目のテストの級内相関係数 (intraclass correlation coefficient: ICC) は、すべての因子において.70 以上の値が得られた。

<妥当性>

先行研究の探索的因子分析で得られた 4 因子構造（自己ポジティブ、自己ネガティブ、他者ポジティブ、他者ネガティブ）を確証的因子分析によって検証した結果、 χ^2 値= 468.7、自由度 = 246、GFI= .87、AGFI= .85、CFI= .91、RMSEA= .06 という適合度の指標が得られた。これ

らの結果は、JBCSS の因子的妥当性を支持するものと考えられた。

また、JBCSS と ATQ-R の相関分析の結果から、自己と他者に対するネガティブなスキーマとネガティブな自動思考、そして、自己と他者に対するポジティブなスキーマとポジティブな自動思考が相関することが明らかになった。また、JBCSS と RSES-J の相関からは、自己に対するポジティブ、ネガティブなスキーマは自尊感情と相関することが示された。これらの結果は、尺度の構成概念妥当性を示すものであると考えられる。

<採点方法>

回答者はそれぞれの項目に対して「はい」か「いいえ」で回答し、「いいえ」の場合は0点とし、「はい」と答えた場合には、その程度を「1. 少しそう思う」「2. まあまあそう思う」「3. とてもそう思う」「4. 完全にそう思う」の4段階で評価し、それぞれ1~4点に得点化する。下位尺度ごと（1~6：自己ネガティブ、7~12：自己ポジティブ、13~18：他者ネガティブ、19~24：他者ポジティブ）に合計得点を算出する。

<尺度の使用について>

項目の変更は認められない。下位尺度ごとの使用は可能である。

(出典文献)

内田知宏・川村知慧子・三船奈緒子・濱家由美子・松本和紀・安保英勇・上埜高志 (2012). 日本版 Brief Core Schema Scale を用いた自己、他者スキーマの検討 —— クラスターパターンの類型化および抑うつとの関連 —— パーソナリティ研究, **20**, 143-154.

<連絡先>

内田知宏（東北大学大学院医学系研究科予防精神医学寄附講座）

e-mail: a8pd1601@gmail.com

<無料・有料の別>

無料

<著作権関連情報>

JBCSS は、山内貴史氏らが先に原著者から許可を得た上で日本版に翻訳し、信頼性と妥当性について「心理学研究」で報告している。本研究開始時には、この日本版がまだ発表されていなかったため、著者らは原著者に許可をとり、山内氏の BCSS とは別に日本版を作成しこれを本研究において使用した。